

岸田外務大臣による国連ハイレベル政治フォーラム（HLPF）

サイドイベント挨拶

ドーン タイ王国外務大臣閣下,
シュタイナー 国連開発計画総裁,
御列席の皆様,

日本の外務大臣の岸田文雄です。本日は、インド、マレーシア、タイ及びUNDPとの共催で、本サイドイベントを開催することができ、大変光栄に存じます。

2015年の採択以降、世界は、SDGs達成に向けて走り出していますが、あらゆるステークホルダーが国を超えて共通の課題に挑戦していく、そのための「パートナーシップ」の構築が重要です。

先ほどの日本の発表でも申し上げたとおり、日本は、SDGsの実施にあたって、PPAP、すなわちPublic Private Action for Partnershipをスローガンとして掲げています。本イベントには、日本から、民間企業2社が参加し、SDGsに貢献する取組を発表する予定です。

一つは、損害保険ジャパン日本興亜による取組です。天候不順による農村地域の損害リスクを軽減する保険商品を開発・販売し、小規模農家の自立と生活向上を促進しています。

もう一つ、日本フードエコロジーセンターは、食品廃棄物を飼料とし、それをブランド肉の生産に利用しています。食品リサイクル法に基づくりサイクルループを構築する、まさにゴール12「持続可能な消費と生産」の達成に貢献する取組です。これらの事例の紹介は、我が国のPPAPの実践をお示しする機会になると確信しています。

御列席の皆様,

SDGs達成に向けては、国を跨いだ形でのパートナーシップが必要なことは言うまでもありません。本サイドイベントは、他のアジア諸国やUNDPの協力を得て、アジアにおけるグッドプラクティスを加盟国全体と共有し、世界規模での取組を後押しするものです。

本日、インド、マレーシア、タイからスピーカーを得ていますが、経済発展や地方分権の度合いが大きく異なるアジア諸国が、多様な形でSDGsに取り組む様は、他地域のモデルとなって国際社会全体の取組を牽引することになると信じています。

また、本イベントの共催者であるUNDPも、SDGsに資する事業の構築を後押しするための情報ネットワークを日本やタイにおいて設立し、ビジネスを通じたSDGs達成を支援しています。国連機関による企業との連携は画期的であり、まさにPPAPの心強い担い手です。

このようなアジア地域における経験の共有が、世界全体の取組を加速する一助となるよう心から期待しています。アジア、そして世界規模でのパートナーシップを強化し、「誰一人取り残さない」世界の実現に向け、共に取り組んでいきましょう。

ご清聴ありがとうございました。

(了)